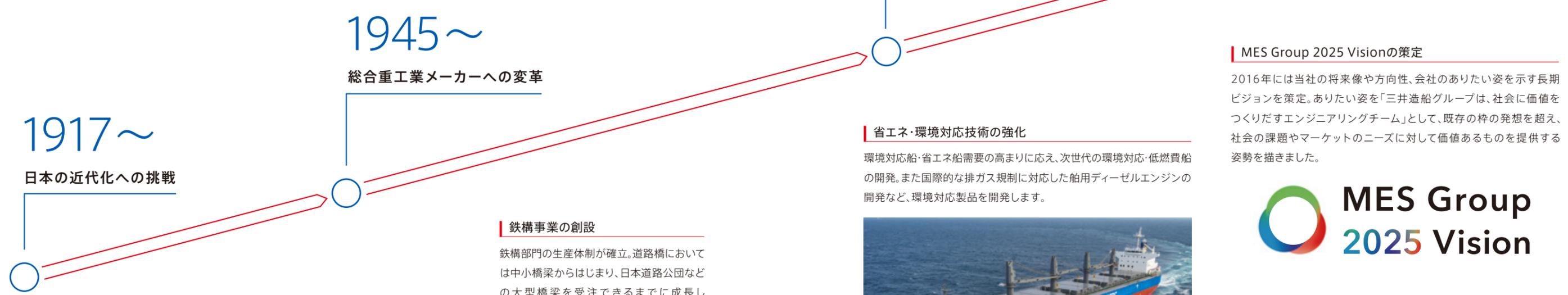


History

挑戦と変革の歴史

日本の近代化にとって不可欠であった造船。
その技術をコアに、常に新しい領域へ果敢に挑み、時代のニーズとともに変化を続けてきた三井造船グループ。
私たちが担う領域は拡大し、船舶、海洋、機械、プラント建設までを手掛けるエンジニアリンググループへと成長。
さらに大きな価値の創出を目指し、挑戦と変革の歴史は続きます。



1917~

日本の近代化への挑戦

三井物産造船部として誕生

1917年11月14日、三井物産造船部として誕生。以来日本の造船業のリーディングカンパニーとして歩みます。



1924年 日本初となるディーゼルエンジン搭載の赤城山丸を建造

船用ディーゼルの技術導入

1926年デンマークのバーマイスター・アンド・ウエイン社(B&W)とディーゼル機関の製造販売実施契約を締結。1928年には三井B&Wディーゼル機関の1番機を完成します。

陸上部門への進出

1930年代、レーヨン工場建設や各種装置、鉄管の製造に携わります。これがその後の化学工業装置の分野や鉄構分野へ進出する素地となります。

1945~

総合重工業メーカーへの変革

独立分社と三井造船への社名変更

1937年、造船部は株式会社玉造船所として、三井物産(株)から分離独立しました。本店本部、神戸営業所、病院、総務部、工務部の5部門で独立会社としての第一歩を踏み出します。



1952年 玉工場

プラント建設分野への進出

1955年に発足した三井石油化学工業(株)のプラント建設に携わります。これがその後の石油化学プラント建設の第一歩となります。



1958年 三井石油化学工業(株)岩国工場向け No.1エチレンプラント

鉄構事業の創設

鉄構部門の生産体制が確立。道路橋においては中小橋梁からはじまり、日本道路公団などの大型橋梁を受注できるまでに成長します。



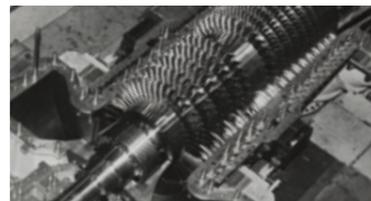
1976年 泉大津大橋

運搬機業界への進出

1961年アメリカのパセコ社と技術提携契約を締結。コンテナリゼーションの普及とともに国内外に多くの港湾クレーンを納入します。

回転機事業の拡大

1960年代からヨーロッパの先進技術を導入し、遠心圧縮機、往復動圧縮機部門へ進出。その後も技術革新を続け、軸流圧縮機や蒸気タービンなども手掛けます。



1980年 軸流コンプレッサ

2000年代~

ビジネスモデルの変革

省エネ・環境対応技術の強化

環境対応船・省エネ船需要の高まりに応え、次世代の環境対応・低燃費船の開発。また国際的な排ガス規制に対応した船用ディーゼルエンジンの開発など、環境対応製品を開発します。



環境対応・低燃費型バルクキャリア「neoシリーズ」

三井海洋開発(株)の上場

2003年7月、三井海洋開発(株)が当社子会社として初めて東京証券取引所に上場を果たします。翌年6月1日には、同所市場第一部指定銘柄となり、現在も躍進を続けています。



2004年 三井海洋開発(株)が一部指定銘柄へ

ライフサイクルソリューションの提供

EPC(設計・調達・建設)だけでなくメンテナンス・アフターサービスを通して、製品のプランニングから解体まで、ライフサイクル全体を対象とするエンジニアリングサービスの提供を開始します。

2016~

次の100年に向けて

MES Group 2025 Visionの策定

2016年には当社の将来像や方向性、会社のありたい姿を示す長期ビジョンを策定。ありたい姿を「三井造船グループは、社会に価値をつくりだすエンジニアリングチーム」として、既存の枠の発想を超え、社会の課題やマーケットのニーズに対して価値あるものを提供する姿勢を描きました。



創業100周年

三井造船グループは、2017年11月に創業100周年を迎えます。造船から始まった私たちの事業は地球規模に広がり、100を超えるグループ企業、13,000人を超える従業員を有するエンジニアリンググループへと成長しました。次の100年を三井造船グループの飛躍のステージとすべく変革を進めています。



持株会社制へ移行

三井造船グループは、2018年4月1日を目前に持株会社へ移行すべく準備を開始しました。グループ経営の深化を加速させるために、船舶事業、機械事業およびエンジニアリング事業を、それぞれ事業会社として分社化します。合わせて、商号を「三井E&Sホールディングス」に変更し、新生・三井E&Sグループとして新たな一歩を踏み出します。